

## 学会記事

### 第14回徳島医学会賞受賞者紹介

徳島医学会賞は、医学研究の発展と奨励を目的として、第217回徳島医学会平成10年度夏期学術集会（平成10年8月31日、阿波観光ホテル）から設けられることとなりました。年2回（夏期及び冬期）の学術集会での応募演題の中から最も優れた研究に対して各期ごとに大学関係者から1名、医師会関係者から1名に贈られます。

第14回徳島医学会賞は次の3名（今回は医師会から2名）の方々の受賞が決定いたしました。受賞者の方々には第231回徳島医学会学術集会（夏期）授与式にて賞状並びに副賞（賞金10万円及び記念品）が授与されます。

尚、受賞論文は次号に掲載予定です。

#### （大学関係者）



氏 名：藤田佳子  
生 年 月 日：昭和52年5月6日  
出 身 大 学：大阪薬科大学薬学部  
薬学科  
所 属：徳島大学大学院ヘル  
スパイオサイエンス  
研究部病態情報医学  
講座情報伝達薬理学  
分野

研究 内 容：Lysophosphatidylcholine による VEGF レセプターの transactivation（過酸化脂質による血管内皮細胞障害の分子機構）

#### 受賞にあたり：

この度は、第14回徳島医学会賞に選考して頂き、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

現在私は、血管内皮細胞における細胞内情報伝達機構に関する研究に従事しております。近年、人口構成の高齢化や食生活の欧米化に伴って動脈硬化を基盤とする心筋梗塞や脳梗塞に罹患する人が増え、その対策が求められています。動脈硬化病巣において、酸化反応による変性低比重リポタンパク（酸化 LDL）の作用が深く関わっていることがわかってきました。そこで私は、酸化 LDL、またその主要構成成分である LPC に着目し、血管内皮細胞におけるそれらの影響、細胞内情報伝達機構につい

て研究を行い、動脈硬化病巣における細胞内情報伝達分子をターゲットとした新しい治療法の開発を目指しています。

今回の受賞を励みに、更なる努力を続けていく所存ですので、御指導の程よろしくお願い致します。最後に、私の家族、また研究を支援して頂いた共同研究者の皆様、貴重な御指導、御助言を賜りました情報伝達薬理学分野の玉置教授、奈良県立医科大学薬理学講座の吉栖教授に心より感謝申し上げます。

#### （医師会関係者）



氏 名：浦上慶仁  
生 年 月 日：昭和19年4月23日  
出 身 大 学：徳島大学医学部  
所 属：浦上内科・胃腸クリニック  
研究 内 容：*H.pylori* 除菌による  
胃 MALT リンパ腫の  
内視鏡像、組織像お  
よび IgH 再構成の変  
化

#### 受賞にあたり：

このたびは第14回徳島医学会賞をいただき、審査をして頂きました先生方ならびに関係各位の皆様には厚く御礼を申し上げます。

ご承知のようにヘリコバクター・ピロリ（以下 *Hp*）は胃炎、胃・十二指腸潰瘍の病原菌として注目され、この細菌を除菌することで胃炎の組織学的改善および消化性潰瘍の再発防止が可能となりました。

マルトリンパ腫は1983年、Isaacson 等によりその疾患概念が提唱され、1993年彼等により胃マルトリンパ腫（以下 MALToma）に始めて *Hp* 除菌療法が施行され6例中5例に腫瘍が消退したと Lancet 誌に報告されました。その後1995年ドイツ、スイスからあいついで同様の成績が発表されましたが、これらの論文に刺激されて筆者らも1993年から *Hp* の除菌療法を開始しました。

除菌対象となった51例の MALToma の内視鏡像は表層性、多発病変が多く胃炎様、びらん、潰瘍像、小隆起、褪色した粘膜など多彩な像を示しました。

除菌により MALToma の病巣部が内視鏡観察で白色の粘膜像を呈することに注目し、この部位の病理組織学的検索で白色粘膜の出現は腫瘍により浸潤された固有胃腺の消失の程度と相関することを報告しました。白色粘

膜は *Hp* 除菌後の MALToma の消褪を示す内視鏡的指標になると考えました。

IgH のモノクロナリティーは腫瘍消褪後も数年間持続する症例もあり組織像の改善とタイムラグを生じていました。

今回の研究にさいし御指導、御協力頂きました徳島大学人体病理学、佐野壽昭教授にあらためて御礼申し上げます。



氏 名：宇都宮正登<sup>うつのみやまさ と</sup>  
 生 年 月 日：昭和29年12月 7 日  
 出 身 大 学：大阪大学医学部医学科  
 所 属：医）宇都宮皮膚泌尿器科  
 徳島市医師会前立腺がん検診委員会  
 研 究 内 容：徳島市前立腺がん検診の現況と課題  
 ～第2報 過去3年間の比較検討～

受賞にあたり：

このたびは第14回徳島医学会賞に選考していただき、誠に有難うございました。

私の大学での研究テーマは、尿路結石症に対する基礎的研究でしたが、平成5年父の診療所の新築移転に伴い帰徳して以来、あまり尿路結石症の研究とは縁のない生活となっております。

平成12年、縁があつて徳島市医師会の理事となり、当時の玉置徳島市医師会長と徳島大学泌尿器科香川教授のご尽力により、徳島市民を対象としたPSAによる大規模前立腺がん検診が実現しつつあり、その任をまかされたのが今回の研究の始まりでした。

直ちに、徳島市医師会前立腺がん委員会を立ち上げ、医師会から私と川島周先生、徳島大学から金山博臣先生、徳島県立中央病院から炭谷晴雄先生、徳島市民病院から横関秀明先生にご参加いただき、より良い検診となるように努力してまいりました。

一般開業医の先生方および徳島市民に対する、前立腺がんの知識を深めていただくため、各種講演会並びに市民公開講座などを毎年開催しており、平成15年度には1万人を超える市民の方がPSA検診を受けるようになりました。

また毎年、早期前立腺がんの発見率が上昇し、進行がんが減っているのも事実です。

このように、診診あるいは病診連携によるがん検診は、地域におけるがん死を減らすことにつながり、有意義なものと考えます。

また今回選考されました賞は、前立腺がん検診にご理解を頂きご協力を頂いた徳島市医師会員の先生方、そして精密検診施設としてご協力を頂いた泌尿器科専門医の先生方に対する賞と考えております。

この場をお借りいたしまして、諸先生方に御礼申し上げます。